

# ばっぴんぐだま 1986 No. 76


事務局:〒 長崎市 津田尚美方 (TEL

編集人:葛西よう子:〒 長崎市

## 大阪、ウーマズ クリニック 紹介 津田 尚美

たくさんの方が自分の体について様々な問題を抱えている。その体に関することは特に性に対するタブーともかわりあつて、永遠男中心の医療、や社会の中からは充分に取り上げられて来ていない。その立場にたつた、女の為の医療を作るとは、即ち女のスタンスによる病院を作る事ではなく、私達自身の、自分の体に対する意識変革をしなければ、自分自身で力をつける事が始まる。という事で、そのためのクリニックを作ろうというグループが大阪に出来て二年、それぞれがそれぞれの運動をおこなっています。

まきろスヘキラム↓  
白い、きれいなブラス  
リング(銀の器具)



挿入の時  
見る時  
揺れる

「ばっぴんぐだま」二月号(1986)で「女のためのクリニック」というのを御紹介しました。大阪市東区玉造3-6-2に「女のためのクリニック」準備会が、どうやらそこの活動としてまきろスヘキラムで元氣印そのものの女のグループです。いつも私達ばっぴんぐだま達は大阪から送られて来る枚数達をみるに、かつつけられて来ましたが、六月十四、十五の両日、私達は事務局として下さる津田尚美さんと大阪へ派遣し、実際に活動の様子をみて来てもらうことに。

自分の体を見てみたい、自分の子宮口を見てみたいというのがアメリカがフェミニズムの運動をする女達の仕事に、器具を輸入し、自分で挿入し、下に鏡を当てて見る。ほじろを見る私の内部にびっくり。と同時に「ああ、ふひあ」と肩に入れた力がスリを抜けて行く様子が、(スヘキラムは三百円で彼女達が売ってる)。そして助産婦さんに手伝ってもらって、ペアリを入れ確認する。自分の体に慣れ、仲良くしなれば、……と皆が体験し、語り合う。

映画上映「中絶、北と南の女達」 四百人が集まった連続学習会「中絶、避妊」一人が悩まない更年期「奔々」女の生と避妊はパートII、パートIIIと続く鍼灸治療 鍼灸師、小池まさ子さんによるオナホ



金曜日 午後三時から 会員三千円 一般三千円 色々の賃内に  
も答えてます。 予約制  
本の出版 「中絶ー女たちのメッセージ」 (定価千円 三式三冊)

四千部印刷  
講演会 「生む性からの真実」 産婦人科医 佐々木静子さん  
「女の心とからだ」 看護婦 助産婦 赤松彰子さん

「女の心とからだ」の相談室 毎週水曜日 午後 赤松さん担当  
合宿 子宮筋腫手術のビデオを見たり 話し合いをしたり。  
事務所 大阪中東区玉造 このもの2階のクリニック準備会が

TEL 06-764-7001 振替郵便 0-45309  
三階建ての倉庫を改築して建物をつくりつけ、イスの部屋  
にための敷の部屋、キッチン、風呂、トイレ、冷暖房付  
志を同じくする女性達の宿所も可能

専従の宇野澄江さん  
今迄の職をやめ、自費で十ヶ月間、アメリカのセウのクリニック  
視察に行き、そこで共に働いて来た、アメリカの婦人団体との  
交流もして来た。 今事務所に住み込み、常時事務局  
は開いている。

資金作り 会員みんなコンドームを売っている。

### 優性保護法

改悪反対運動がはじまった時、私は素朴に  
反対した。名前がおかしい。女性は何をする事  
も、自由な名前を法律によって望まない妊娠が規定される。そう  
いう名前を法律によって望まない妊娠が規定される。そう  
いう名前を法律によって望まない妊娠が規定される。そう

件数は下々来ている。今は五十六万六千人という数字が出てくる。  
どうして中絶という個人的なことで宗教もバラバラにもつ政治団体  
なども、人権にさげすむ。生めない、と言っているのに、生まねば  
ならぬ。と国が法律でもう生ませるとすれば、女は人生は人間の  
人生ではなくなる。三十一世紀は女の仕事を捨てて生きる時代  
が来るだろう。何時、何人生かは一人一人の人生の中で、決め  
られない。望まぬ妊娠をした時、生めよう、自分か、生を  
えよう、人を法律で罰する事。もしこの法律が中絶を許し  
る経済的理由 (99%はこれ中絶している) がなくなると、刑罰の  
堕胎罪は現存している。で、自分の意志で中絶すると、女と医師  
が罰される。女の自己決定、理由を問わず、中絶が出来ない制度  
を作らねばならぬ。女の生み出す国から規制されてはならない。  
女は、女、出産は決定的行為といえる (お産で精子の持主  
は死んだリレナリ) 愛情があれば、話し合える。しかし決める



六月十四日夜、  
女のためのクリニック準備会 '85  
発足一周年記念 講演会

「わたし、  
サ たちのおあい」  
ヤマナシ 由美子 さん

次頁に、津田尚美さんが持ち帰ったテープをもとに  
講演会のあらましをお伝えします。

三つ、彼等達のエッセイにふれてみたいと単純に思い立ち、  
思い切って大阪迄、出かけました。梅雨の雑踏の中を、「ふぞ  
日本の都会、この中にならう」と思いつく、彼女等に逢いま  
した。「あなた方の執意には負けました」と講演をたのみに  
行ったりすると、言われる。そう彼女達のすばらしいエッセイ  
三千台、三千台が多い。ソカにも若々しい力強さ、明るさ、  
本当にすばらしいものだ。  
「もう進むのやない」と口ぐせのように言う彼女達。  
これは、単に遠く都会の話ではない、とは思いました。  
私達の仲間と、そのこと。

のは、女、最終決定者は女である。ことをあきらめ、すると、男が  
女の生を牛耳る事になる。三運動の中で、得た正義と熱血  
の人に佐々木静子さんびら。

### 富子見病院事件

千人をこえる女達の子宮、両方の卵巣を  
取る事、どうして医師達に出来たのか。女一人の体は、自  
分のもの、自分の人生は、この体で生きる。と、その最終的に自分の  
事を自分で決めたい。たのび事件の本質、権威と押しつける医  
者、超音波という時、日本に数台しかない機械、ほとんどどの  
人が参入している。女の体について、医師養成をする時、王土  
を作り教えるのは男、どうして視覚、触覚、嗅覚、かかるとい  
女性の生殖系の機能は、機能を実証した。又は果敢に  
ものは手術、ことごとく、解剖がある。しかし全身、女  
髪、毛、骨、だるい、疲労感、は、生れ、決定を下したのは全  
員男、自身医師の身、で、立ち上った佐々木さんは、専断家、おれ  
科、万能を止めないと、オオ、オオの富子見病院事件、あつと  
いっている。自分の体を知る。には、たくさんの情報が必要。それ  
をする場に、このクリニックが、なるとほしい。



イル、現在厚生省は解糖にむけて動きはじめた。三三三  
 先には解糖の見通し、理由とと医者の表向きに言  
 るのは副作用の心配はほとんどない、欧米は使用している三三三  
 六十年より力に解糖されて、女の見かたをコントロールする薬  
 と女性解放の新いカとして取り入れられた。三三三後の今日  
 昨秋の「ミス」(雑誌)によると、ほとんどの人の足の痛み、むみ、視  
 カ低下、頭痛、息切れ、どうも等々の循環器障害、になやみ、  
 長期間ホルモンが体に蓄積すると心臓を作用につまひる。  
 人エホルモンを長期間体内に入れて、事は在史上はじめて。  
 現在アメリカでは、使用人は減つており、オーストラリア、  
 すら人、糖尿のある人、その他は不可。三三三の連続も不可と  
 なり、あり、ヨロバは避妊方の一位をコントロールにやめた。  
 今、では欧米の知識ある女性、使用しない事を知り、新しい  
 性ホルモンは、男の持つベラ、その他レントゲン、超音波  
 体外受精、精子銀行、すべて、(+)は、三三三の解明されてい  
 ない。人命を作る、だが、どうも意志で作るのか、とも  
 おそろしいと思う。生殖とは、女にとって、人間にとって、どうや  
 事なのか、しる、考える、ほしい。

# 男が偉いのは特権があるから

私は明治生まれ大正時代の父  
 や伯父、その友人たちを見、接  
 して、男とは女より一段上の存  
 在だと思つて育つてきた。  
 映画界に入つても恵まれた環  
 境で良きプロデューサー、優れ  
 な監督たちのもとで指導を受け  
 たり、若くして一流の人たちと  
 交わる機会も多かったため、女  
 より一段優れた男という信念は  
 崩れることはなく、社会の人生  
 の大事は判断はやはり男性でな  
 ければならないと信じていた。  
 「もいま私自身、社会の荒波、  
 の日にほろり出され、愚せきき  
 った競争の中に巻き込まれてみ  
 ると、男性の欠点も、また男で  
 あるための悲しさも見え、しよ  
 せん男も女も同じなんだと思う  
 ようになった。  
 男性の方が視野が広く的確な  
 判断が下せ、公正に物事を進め  
 る。(ロサンゼルス、杉葉子  
 57元女優)

張つた男性の愚善さも、女  
 に同情する今日このごろであ  
 る。(ロサンゼルス、杉葉子  
 57元女優)



## ぼんウワン 六月例会

一回、そろそろ「良イネー」といふ新聞記事と御紹介  
 します。朝日新聞の「男と女」という投書欄です。六月の  
 はじめに掲載されたもので、日頃考える、感じている事や、  
 出てきます。それにともなふ、新しい「青い山脈」の杉葉子さん、  
 でした。